

城と史蹟を歩く会第20回 「古河城と小山城を歩く」ご案内資料

<日時> 平成15年3月15日(土曜日=予備日は16日)

<主要行程> 八幡宿7時14分(京葉快速前の方乗車)東京8時03分着、山手線、上野(⑤番線東北本線)8時54分(先頭車両乗車)小山10時08分着、改札口前集合— 小山宿— 脇本陣— 須賀神社— 小山評定跡— 小山城— 小山13時37分または51分(14分)古河— 古河宿— 鷹見泉石記念館— 諏訪郭— 古河城址— 正定寺— 古河16時30分ころ発、上野、東京経由、八幡宿19時ころ着

JRダイヤの改定のため一部スケジュール表を変更しました 山岸弘明

- 1) はじめに(地名のいわれ)
 - ①小山=平安時代からの郷名。思川近くのおおむね平らな台地(小山)。地形に由来か。
 - ②古河=未開地を意味する空閑(くが)の転訛。
- 2) 日光街道と小山宿
 - ①日光街道=江戸時代5街道の1つ。江戸から日光に至る。この間、草加、越谷、古河、小山、宇都宮など24宿、うち千住~宇都宮間は奥州街道を兼ねた。歴代将軍が日光東照宮参拝に使った御成街道で、元和3年徳川家康の遺骸を久能山から日光へ移葬したときの通路でもある。
 - ②将軍の日光参詣=通算19回。うち家光が10回、天保14年の家慶参拝は供18万人、幕府経費18万両の大パレード。街道機能は完全にマヒした。
 - ③小山宿=日光街道の要衝。宿場町。思川船運の河港として発達。江戸後期、宿村(小山宿)大概帳=宇都宮戸田小山城守領分。南北12町13間、総人口1,392人(うち男636人、女756人=女が多い)家数423軒、本陣1、脇本陣2、問屋場1、旅籠74、木賃宿ほか
 - ④札の辻=要路に置かれた公設の掲示板。掟、通達の徹底などが目的。
- 3) 若松脇本陣
 - ①本陣=大名、旗本、公家など公務出張者の宿泊、休憩用旅館。大名行列は100名~数千人。日光参詣、参勤交代の大名宿泊で賑わった。
 - ②若松脇本陣=格式を感じさせる唐破風玄関、式台。かつて上段の間、書院、庭園など大名屋敷に準じた。明治以降取り壊され現存は珍しい。当時は若松氏、現在は高橋氏の住居になっている。
 - ③明治はじめ、明治天皇が日光、東北巡行のとき休息。

4) 須賀神社

- ①関が原の合戦東軍戦勝祈願の地=小山評定で石田三成ら西軍との決戦を決めた徳川家康、秀忠以下諸将、打ち揃って戦勝を誓う。家康、社領51石を寄せる。寄進状が現存。
- ②拜殿=屋根入母屋造り、唐破風向拝。江戸後期建造。本殿は後代の建造で権現造りとはいえない。
- ③朱みこし、旧石鳥居、泣き石、旧別当寺山門。新国道4号線が境内を2分

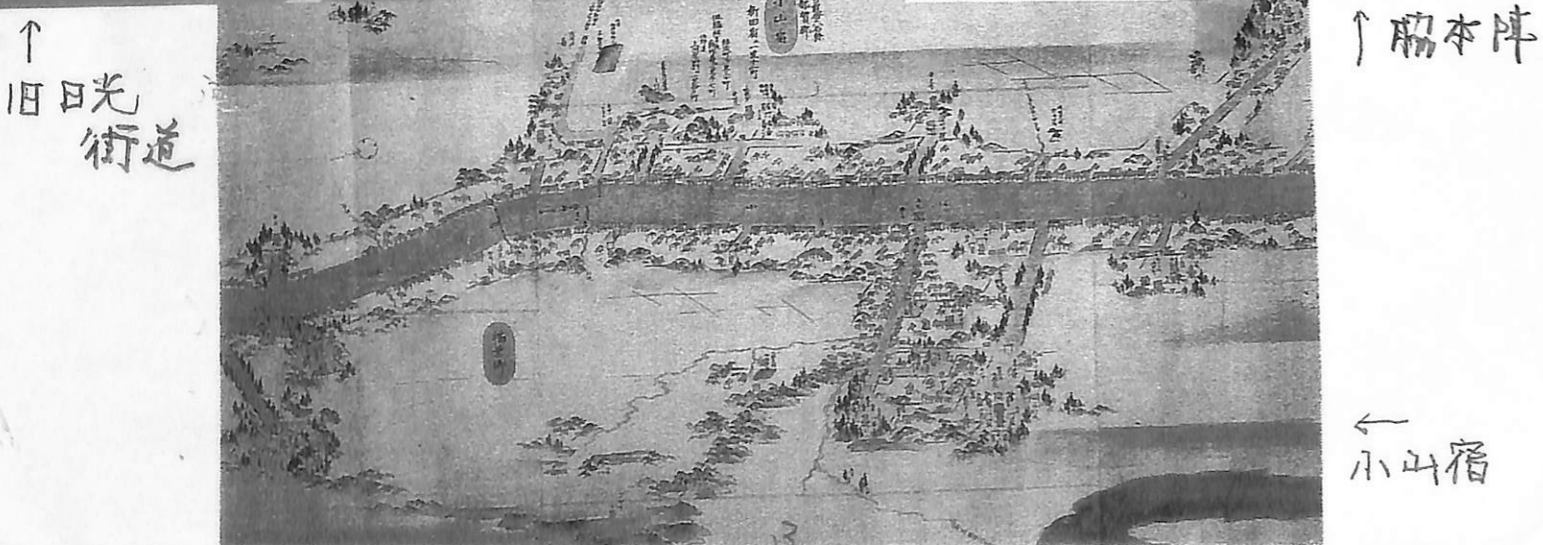
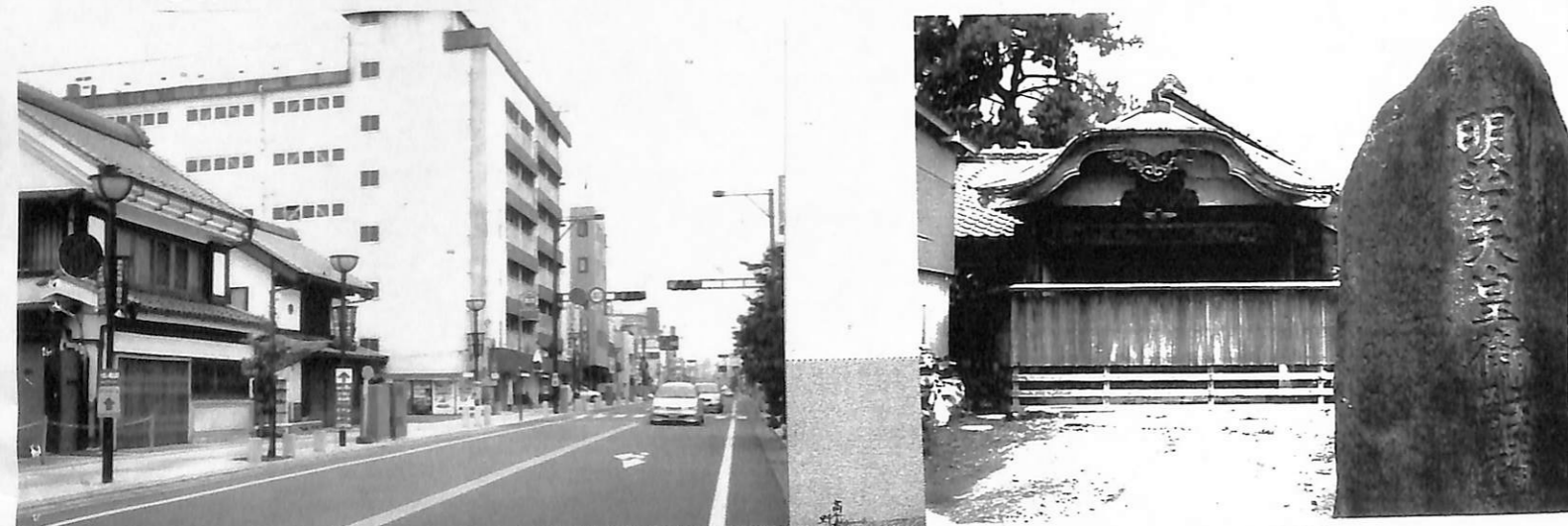
5) 妙建寺

- ①日蓮宗。本堂は享保2年建立。堂内天蓋に龍、格天井に百人一首55枚。
- ②手水石は小山宿遊女らが寄進。珍しい。

6) 小山評定跡、小山御殿跡(小山市役所)

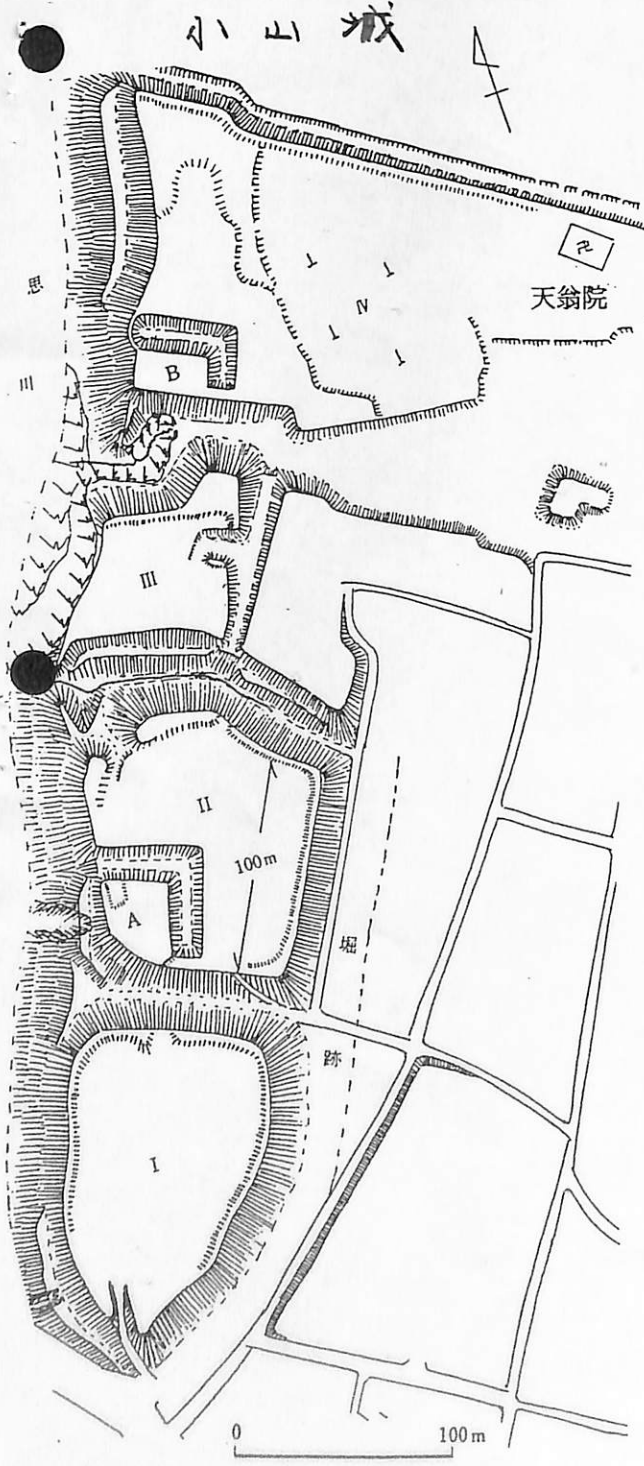
- ①上杉討伐=慶長3年豊臣秀吉が死ぬと、後継政権をめぐる政争は激化したが、それは力をつけた徳川家康と阻止しようとする石田三成の対立に絞られていく。慶長5年、蟄居謹慎中の三成と通じた? 上杉景勝が上洛もせず軍備を整えていることを咎めた家康が景勝討伐の軍を起こす。これは留守中三成の挙兵を計算にいられた挑発でもあった。はたせるかな三成は反家康の西軍を結集、関が原の合戦の火蓋が切られた。
- ②家康の上杉討伐軍 合計10万人
前軍=秀忠率いる徳川軍
後軍=家康率いる豊臣恩顧武断派大名。福島正則、池田輝政、細川忠興、黒田長政、京極高知、山内一豊ら 奥羽勢=伊達政宗、最上義光ら
- ③慶長5年7月21日、上杉討伐軍江戸出発。24日前軍宇都宮、後軍小山着陣
小山は思川船運の最上流。兵糧、武器輸送など会津攻略の最前線基地としての立地に恵まれる。
- ④小山本陣(家康仮御殿)=3間四方仮御殿。周辺に野営の諸大名陣屋数十が作られ戦機みなぎる。
- ⑤小山評定=7月25日、三成挙兵を知った家康が仮本陣に諸大名を集めて軍議。福島正則が協力を誓い、諸大名もこれに倣う。8月2日大阪めざしてUターン
- ⑥関が原の合戦とその後
9月15日、延着した秀忠徳川軍を除く東軍8万、三成西軍10万が小雨降る関が原で激突。家康勝利
慶長8年、家康、江戸に幕府開く
元和元年、大阪夏の陣、大阪城落城。正則の危惧した豊臣氏滅亡
元和5年、正則、広島城修築を口実に改易
- ⑦小山御殿(小山市役所)
元和8年、秀忠が小山評定の吉例に因んで跡地に日光東照宮参詣の宿泊御殿建造。
東西100間、南北50間、3面に空堀を巡らせ背後は渡良瀬川。上段の間など。
秀忠、家光、家綱3将軍が6回宿泊。天和2年、幕府財政難のため廃止

NHK大河ドラマから



7) 小山城 (市立城山公園) (昼食=50分の予定)

- ①伝平安末期小山政光築城。中世小山氏居城。源頼朝の挙兵に協力、戦国時代は小田原北条氏支城となるが豊臣秀吉の関東攻めで滅亡した。
- ②天正18年から元和5年まで本多正純居城。正純は家康の腹臣として大阪冬の陣後の濠取壊しを指揮、大御所政治でも敏腕を発揮して小山から宇都宮15万石に栄進するが釣天井事件で失脚した。
- ③小山城縄張り図参照=中世の城は郭名がわからないので便宜上I郭(主郭=本丸相当)、II郭(2の丸相当)、III郭、IV郭などと標記することが多い。
- ④前面を空堀(現存しない)、後面に思川の急崖を背負った後堅固の城。地形を巧みに利用した丘城。関東地方特有の石垣、天守閣のない土の城。空堀、土塁、水の手、船溜など旧状を良く残している。
- ⑤I郭=本丸説は疑問。公園入口の石垣、道路は後世のものだろう。北側に空堀、土塁。
- ⑥空堀=郭を空堀で分ける。深くみごと。版築?舟型?削土は土塁に掻き上げ、後は押し出す。橋は木橋。ひき橋、そろばん橋、はね橋が考えられる。
- ⑦II郭A=案内板は馬出しだが虎口の防御施設にはみれない。高さ、堅固さなど本丸では?建造物は発掘しないとわからない。土橋。本丸橋(後世)の名は混乱のあらわれ。
- ⑧II郭=Aを本丸とすると2の丸。横矢、物見、水の手への小道。
- ⑨空堀の水の手。城主家族、城兵の飲料水。
- ⑩III郭=物見、横矢、虎口。
- ⑪舟溜=河城の特徴。河港から船での兵力移動、物資輸送、脱出口。河からの攻撃を防ぐ升形。
- ⑫IV郭=広い郭。千人溜、千畳敷、太鼓郭などとも呼ばれる兵の集合地点か。
- ⑬大(追)手門=東北側前面に意味不明の土塁などが現存している。大手門はこのあたりか?



ほんだまさみ
本多正純
永禄八年(一五六五)寛永十四年(一六三七)
正信の長男で、幼名を千穂、弥八郎とい
った。少年の頃から家康に仕え、かわいが
られていたという。正純が頭角を現すのは
関ヶ原の戦いあたりからで、翌年には上野
介に叙任されている。特に、駿府と江戸の
二元政治になると、家康の側近筆頭として
才腕を振ることになる。主に外様大名への
対応、外交関係では多くの成果を上げてい
る。正純は知略も父に劣らなかつたが、辛
辣でもあり、江戸側近たちとはしばしば対
立した。正純はよく正純に、「領地は三万石
以上はのそんではならない」と論じていた
という。正純は寡欲な人であったが、正純
はさばけており、父はそれを心配したよう
である。その危惧はあたり、正純は宇都宮
十五万石の城主となるが、將軍の日光参拜
のあり、気を配ってしたことがすべて仇に
なり、領地を召上げられて横手に流され
その地で病没する。権力争いに負けた結果
ではあるが、知略に富むがゆえに、人望を
得られなかつた悲劇の人であった。

8) 移動=小山駅まで徒歩12分

小山13時37分(快速1駅)古河13時48分着
" 13時51分(各駅3駅) " 14時05分着

9) 古河宿

- ①日光街道の宿場町。土井8万石城下町
- ②本陣跡、問屋場跡、高札場跡
- ③御馳走番所跡

10) 福法寺

①山門は古河城3の丸乾門の移築。冠木門形式。唯一の現存建造物。

11) 茶屋口門跡

- ①街道から引込みの虎口。したがって大手門ではない。
- ②鍵型道路(クランク)は敵が一気に攻撃を仕掛けられない仕組み。五井、久留里などの城下町に見られる。

12) 諏訪郭(古河第1小学校の一部、市立歴史博物館)

- ①古河城址数少ない遺構。出城。3千石城代家老土井内蔵充邸が置かれた。日光参詣の將軍は諏訪郭から御成橋、御成御門をへて本丸の御成御殿に向かった。
- ②土塁=当時の現存。横矢の屈曲もみられる。
- ③水濠=残念ながら現代風にアレンジ。なぜこんなことをしたのだろうか。文化度は市原と同じ?

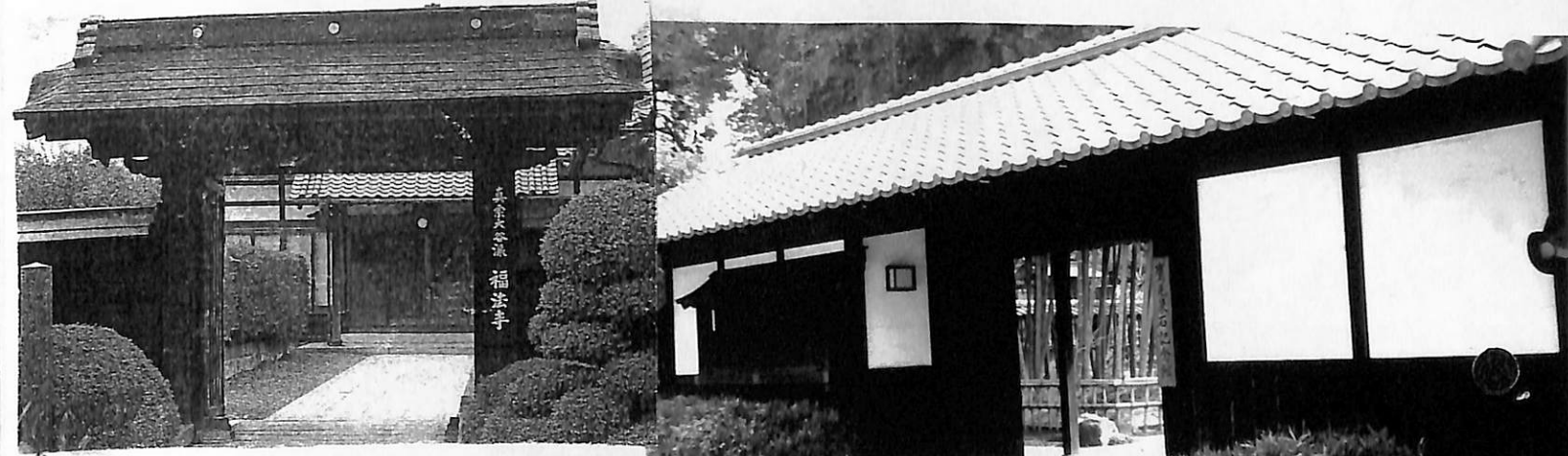
13) 鷹見泉石記念館(家老屋敷)(無料)

- ①鷹見泉石=第11代藩主で首席老中にすすんだ土井利位に仕えて政治手腕を発揮した家老。大塩平八郎事件の鎮圧で有名。渡辺華山らと交際して開港論を主張したので古河への蟄居を命じられた。
- ②元治元年、水戸天狗党の乱で幕府に投降した100名余を収容。
- ③鷹見家旧住居。現存家老屋敷。敷地面積345坪、茅葺き平屋44坪。長屋門、玄関、式台、座敷、縁側、土間、台所など、庭を巡りながら見学。
- ④石灯笼ぬれ鷲は旧2の丸御殿庭園にあったもの。明治維新の時売却されて商家に置かれた。

以下、天候などによりコース内容を省略、変更することがあります

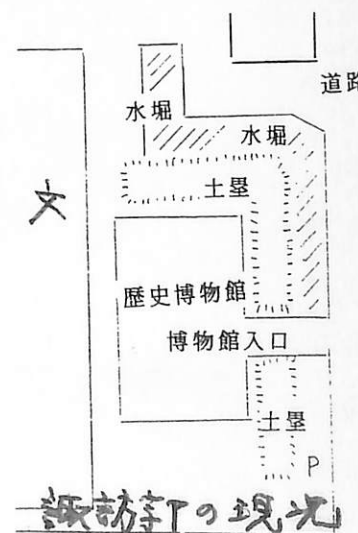
14) 市立歴史博物館 (入館する場合は団体300円)

- ①古河の歴史史料を展示する博物館。原始古代から現在にいたる古河の歴史を紹介。見所は古河城模型、歴代城主ゆかり品など。中世の古河公方は市原に居城した小弓公方足利義明の生家。両子孫が豊臣秀吉の計らいで復縁、喜連川1万石で明治維新におよんだことなどがわかる。



福法寺旧3の丸乾門 →家老屋敷長屋門

↓歴史博物館 ↓土塁と濠



諏訪郭の現況

百間堀跡(道路)

長谷観音



15) 長谷観音

- ①15世紀明応2年古河公方足利成氏が古河城の鬼門よけとして創建。歴代城主が信仰、土井家祈願寺。
- ②本尊十一面観世音菩薩像は背丈2m余、日本3大長谷観音の1つ。

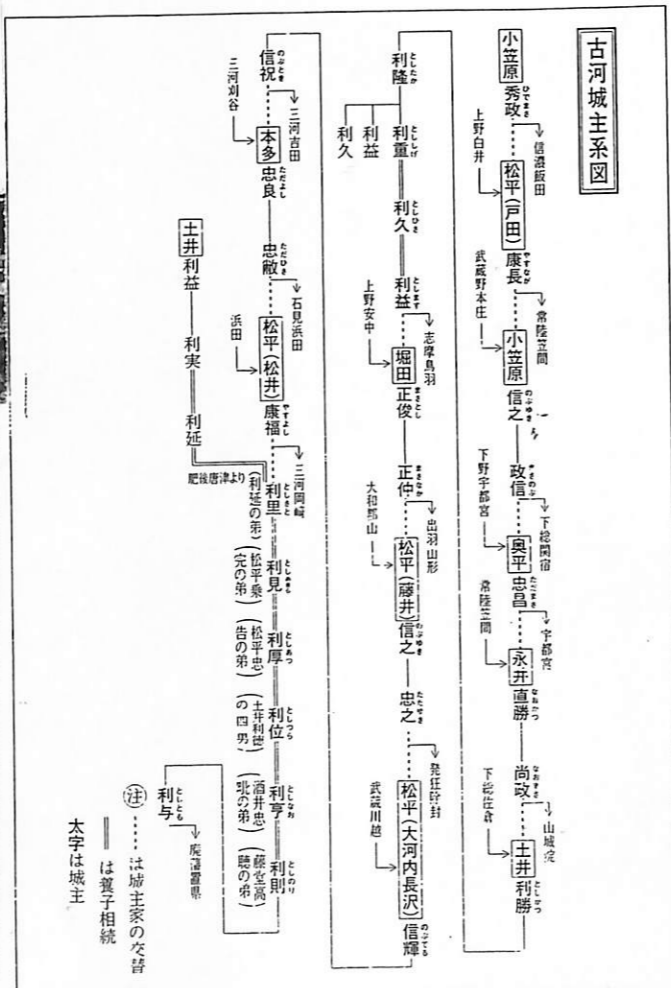
16) 古河城跡 (遠望)

- ①鎌倉はじめ小山氏の一族下河辺氏築城という。鎌倉公方足利成氏が鎌倉を追われたが古河に移って古河公方として上杉氏に対抗した。古河市総合公園の公方館跡はもっとも輝いた時代の古河城だが、5代義氏の時小田原北条氏の配下となり、天正18年の小田原攻略で落城した。
- ②家康の江戸入府後、小笠原、戸田、奥平をへて、寛永10年佐倉から土井利勝が16万石で移封された。利勝は徳川家康の落胤であることがほぼ解明されている。秀忠、家光3代に仕え大老職として幕制確立に貢献した。古河城を大改修、本丸三階櫓(天守閣相当)、巽櫓などを造営した。以後、日光街道要衝地として歴代城主に幕府要職者を配して明治維新に及んだ。
- ③御三階櫓=関東では江戸と小田原を例外として城に天守閣は存在しない。水戸、川越、佐倉もすべて三階櫓。石垣も飾破風もない質素な造りだが、徳川直参としての誇りがみなぎっている。

古河真 →



↓ 古河城址



土井利勝(正定寺)
下総国古河城主



土井利勝
天正元年(一五七三)正保元年(一六四四)
土井利勝には、当時から家康の落胤説がある。真偽の程はいまだに不明であるが、それだけ近い関係であったと思われる。家康の寵愛も深く、三代に渡って重きをなす。秀忠が幼少のころから側近として仕え、慶長七年(一六〇二)には一萬石、同十五年(一六〇九)には三萬石、同二十五年(一六二六)には従四位に昇進し、下総古河で十六万石を賜る。異例の出世ぶりであり、いかに利勝が重宝されていたかを物語る。秀忠の元で酒井忠世と共に幕政を遂行、家光時代にも重用され、大老にまでなる。崇徳が利勝を評し「今はだれもかれも大炊殿に類入体と相見申候」と記しているように、幕府での地位と実力は群を抜いていた。秀忠親政期にはその懐刀として、大いに才覚を発揮したのである。彼は、酒井忠世が比較的厳格な人であったのに対し、人情の機微もわかる人物であった。そのため、忠世が失脚した後も、家光に疎まれることなく、政権にとどまることになる。

④古河城址=明治4年城内に古河県庁を置くが同年印旛県に合併、7年三階櫓以下の建物を競売払い下げ取り壊す。廃城後城址は荒廃し、度重なる洪水で被害を受ける。43年夏の渡良瀬川、利根川大洪水を契機に昭和2年にかけて大改修工事が行なわれ城地のほとんどが河川敷の中に埋没した。

17) 百間濠跡と御成道、古河城跡 (遠望)

- ①百間濠跡=諏訪郭から東、郵便局側の住宅地一帯は百間濠跡。道路を境にやや低地になっていることがわずかな名残。濠幅は60間から最大102間、百間濠は誇張ではない。広々とした水濠が続いた。
- ②御成道跡、御成門跡(遠望)=将軍が日光東照宮に御参りするとき、古河城に宿泊することは恒例になっていた。御成道は百間濠の真ん中に造られた将軍専用の土橋で、渡った所に御成門があった。将軍は本丸に造られた御成御殿に宿泊した。200m先にみえる小さな林村近が御成門跡、周辺に土塁、武家屋敷門が現存している。

18) 正定寺

- ①浄土宗。利勝山。土井利勝の創建。県の文化財利勝肖像画(見学はできない)
- ②土井家菩提寺。利勝の墓2基と側室で2代利隆の生母栄福院、13代利則夫妻、江戸から移葬した74霊合祀碑の計6基の宝きょう印塔がある。
- ③黒門=江戸下屋敷表門の移築。利勝像。
- ④開運弁才天=春日局が家光から拝領。養子で大老にすすんだ堀田正俊が寄進。

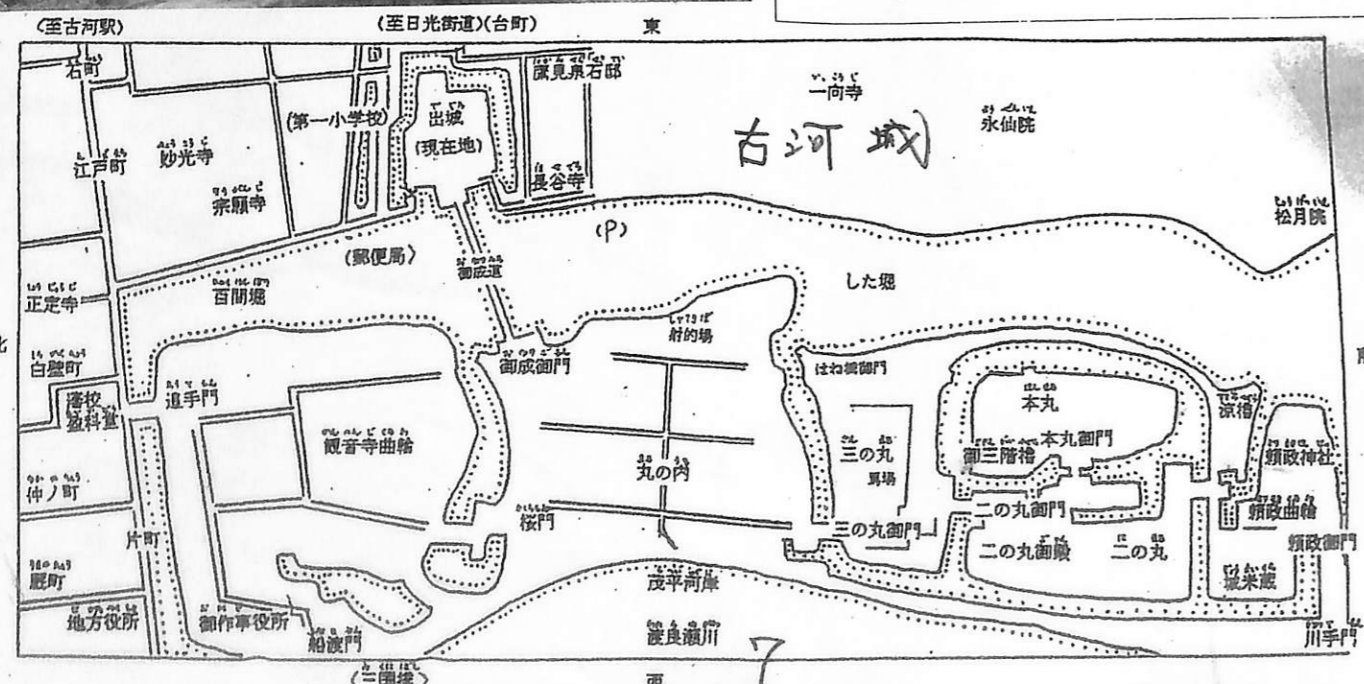
19) 旧武家屋敷

20) 隆岩寺=徳川家康の長男信康の墓

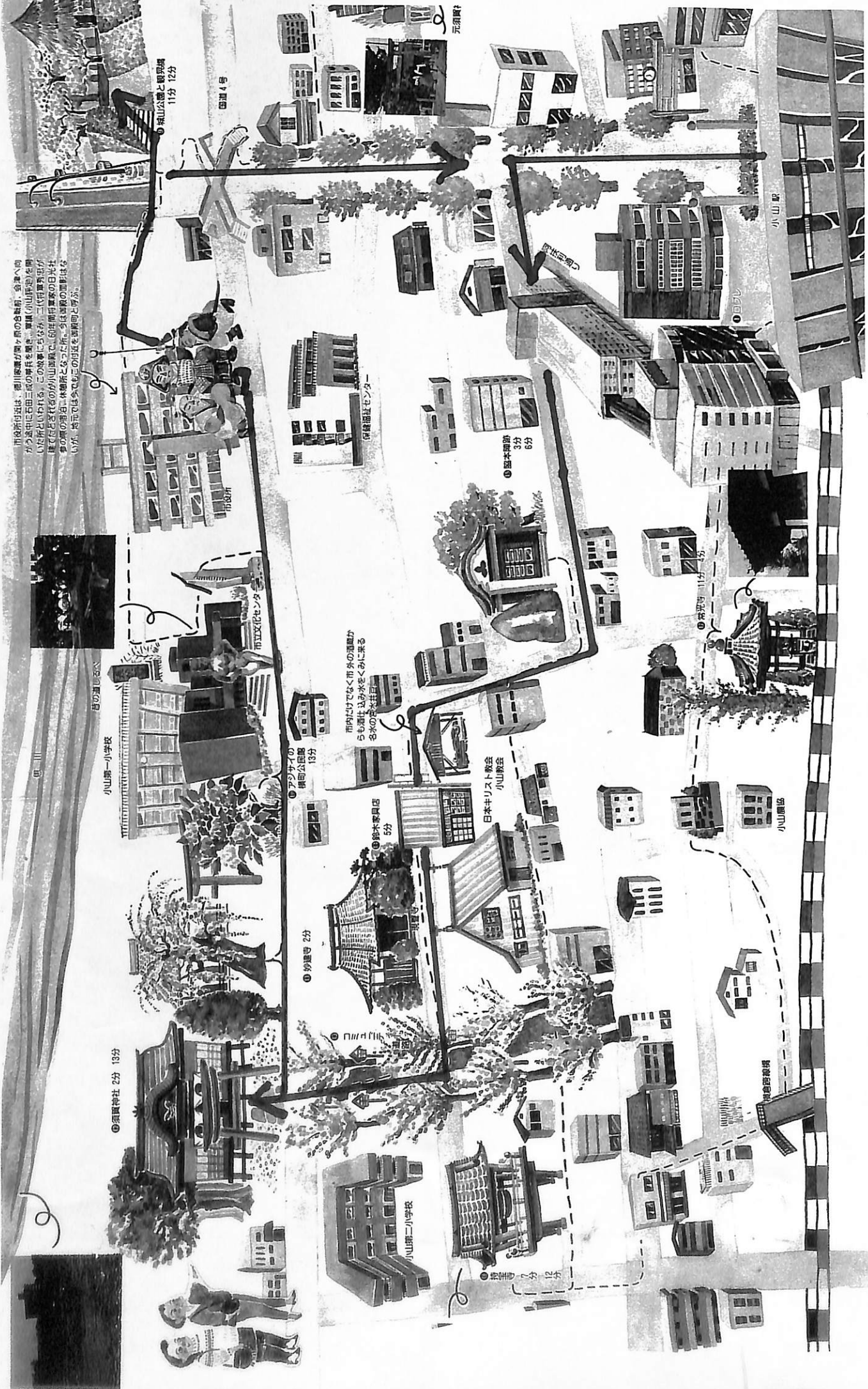
21) 日光街道道標

古河	16時17分(快速)	上野	17時10分着	東京	43分(総武快速)	八幡宿	18時41分
"	16時34分(各駅)	"	17時35分着	"	"	八幡宿	19時ころ
"	16時44分(")	"	17時48分着	"	"	八幡宿	19時すぎ

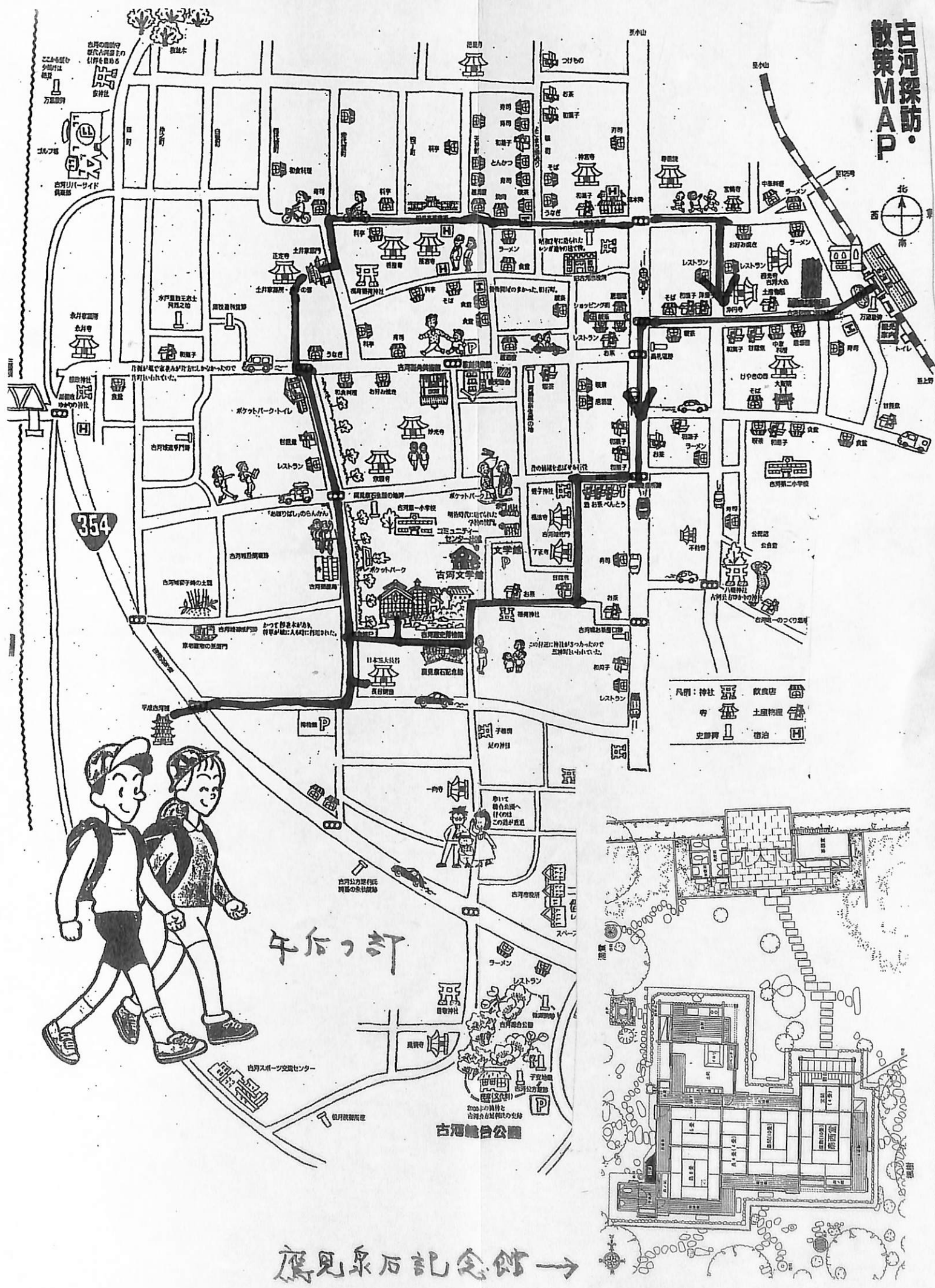
次回第16回=10月8日(火曜日)「生実と小弓、2つのおゆみ城を歩く」お楽しみに
問い合わせ先=城と史蹟を歩く会 山岸0436-42-2237



午前のお散歩 小山観光マップ



古河城と小山城を歩く 案内コース



古河探訪
散策MAP



午後のお散歩

鷹見泉石記念館 →

城と史跡を歩く会 第20回「小山城と古河城を歩く」

平成15年3月15日(土曜日) ALBUM

主要コース

日光街道小山宿、脇本陣、須賀神社、小山評定跡、小山城、古河宿、福法寺、諏訪曲輪、鷹見泉石記念館、長谷観音、古河城跡、家老屋敷門、正定寺、武家屋敷、日光街道道標

参加者42名 (あいうえお順=敬称略)

青木千津子、稲葉ミツ子、石井洋子、板垣てる、板倉 満、猪野春枝、今井勝昭、今井典夫、大谷安弘、大谷順子、小北絢土、小倉すみ、金子昭夫、桑原絹枝、小出敏子、齊藤定子、白土貞子、渋谷奎吾、渋谷恵美子、鈴木淳子、鈴木クニ子、鈴木 等、高沢 毅、高城正雄、高城富子、竹上 茂、続木 暉、続木順子、中島和枝、長島英子、中村節子、西村澄子、藤田康男、吉池一彦、吉池町子、吉水正子、渡辺清枝、山岸弘明、小出惣治、高沢恒子、鷲津寛子、藪本てい子

次回案内

第21回=4月14日「高遠城と諏訪高島城、信濃路の城と桜バスツアー」(満席)

第22回=5月10日「鎌倉大仏と切通し旧道を歩く」

第23回=6月5日「鶴舞城と池和田城を歩く」



↑小山宿川越の儀



↑江戸屋敷杉築馬場



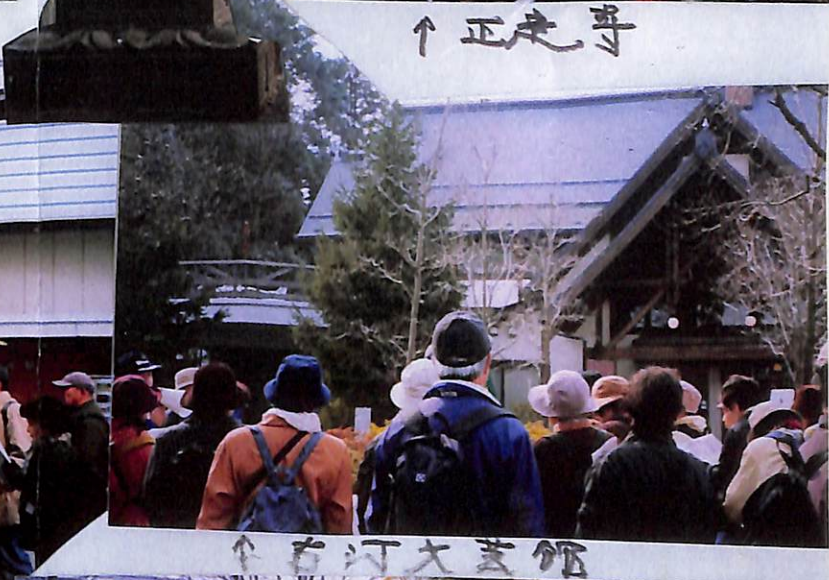
↑正定寺



↑小山評定跡 ↓小山城



↑まが万葉所



↑古河大蔵館



↑城山公園 ↓脇本陣 須賀神社



↓妙蓮寺



↑古河藩伏見殿次所



↑古河城外堀之土塁 ↓古河城跡



↑家老屋敷長屋門



↑古河城刃曲輪



↑家老屋敷長屋門

